

就職活動体験記

法学部(2020年卒)

就職活動に1年以上かけた経験をここに残そうと思う。

私が就活を始めたのは3年生の5月のことだった。周りもインターンの申し込みなど就活を意識し始めた頃だ。学校で開催されていた就活セミナーに足を運んだ。ずらっと並べられた椅子に戸惑いながら腰をかけた。一番前では、就活コンサルタントと名乗るおじさんが、「就活は自己分析と企業研究が第一です！」と語っていた。よくわからず流されるまま、次は企業ブースに足を運んだ。スーツに身を包んだ会社の人は何かキラキラして見えて、会社説明を感心しながら聞いた。私は特にやりたいことがあるわけではなかったもので、名前を知っている企業ばかり話を聞きに行った。

家に帰って自己分析というものを初めてやった。グーグルで「自己分析 やり方」で検索してその通りに自分の人生を書き出してみた。初めてやる自己分析は何だか楽しくて、こんなこともあったなと思いながら人生を振り返った。一通り書き出して、こんなもんかと思い満足した。

それから夏に2・3社はインターンに行かなきゃなと思い、α社(就職情報サイト)に登録した。インターンを検索していると、膨大に会社が出てきて何だか不安になった。ちょうどその頃、学部ラインでβ社(就職情報会社)という団体が就活支援をしているときだ。学生一人一人にメンターがついて、面談を実地してくれるということで、不安を解消したかったのでそこに応募した。

紹介されたのは、γ社(就職情報会社)に就職予定のイケイケの人だった。その人に言われるまま、とりあえずエントリーシートで必ず聞かれるガクチカ(学生時代に力を入れたこと)と自己PRを作成した。正直、自分の強みなんてわからないし、思うがままに書いて添削してもらった。

「これはただ頑張っていることを羅列しているだけだよ」

β社のメンターから厳しいフィードバックを受けた。どうやらガクチカはただ頑張ったことを書いてはいけないらしい。少し話を盛って修正したらOKをもらえた。

夏インターンの応募は、とりあえずA社(銀行)とB社(物販)、C社(食品)に出した。最初に選考に行ったのは、A社(銀行)だ。髪色も黒にし、初めてスーツに身を包んだ。てっぺんが見えないようなビルに入ると早速グループディスカッションが始まった。同じグループの人たちはみんな賢そうに見えて萎縮した。

グループディスカッションの結果は案の定落選だった。初めてお祈りメールというものをもらって冷や汗をかいた。同じサークルの友達はその選考に通過していて、もやもやした。残りの選考を頑張ろうと思い、エントリーシートを提出した残りの2社からは合格をもらった。

初めて参加したインターンはC社（食品）の2デイズのものだった。班になって自己紹介をした時に、自分の学歴が1番高くて班の子たちからすごいねという視線を感じ、少し優越感を覚えた。

秋になった。また秋インターンの募集が始まった。今度はお菓子・飲料メーカーや空港会社に行ってみたいと思い、5社ほど応募した。しかし、すべて書類で落とされてしまった。さすがに落ち込んだ。ただ本選考じゃないし、「まあいっか」と思い、インターンに参加した2社からは続きの案内が来ていたのでそちらを頑張ろうと思った。

B社（物販）の4デイズのインターンを終えたところ、早期選考の案内を受けた。C社（食品）からも同様に早期選考をすると聞いた。うまくいけば2月に内定がもらえる。どちらかは受かりそうだし、早めに1つ内定をもらって、3月の本選考からは数社に絞って受けようと考えた。

初めて受けた本選考の面接は本当に緊張して、顔が引きつった。自分でも焦りながら話していることがわかった。でも質問に的確に答えることはできたし大丈夫だろうと思った。

蓋を開けてみると、早期選考を受けた2社からは二次面接でお祈りメールが届いた。「なんで？何がいけなかった？」そう思った。でも本選考は3月からだから、それまでにもう一度ESを見直して面接の練習をすればいいと考えるようにした。

まず受ける会社を見直そうと思い、学内説明会や合同説明会にたくさん出席した。そこで出会ったのがD社（鉄鋼）だ。同じ大学の先輩が海外で仕事をしてきた写真を楽しそうに見せてくれて、とてもいい人だったしここに入りたいと思った。それから鉄鋼や化学など素材メーカーに絞って受けようと考えた。

エントリーシートも、書いては、書いては友達に添削してもらい修正を重ねた。信頼している友達にお墨付きをもらおうととても嬉しくて安心した。また筆記対策として問題集を3周した。受ける会社もピックアップし、万全の状態ですべて3月1日の解禁日を迎えた。

3月に入り説明会ラッシュとエントリーシートの提出期限に迫られる日々が始まった。相変わらず鉄鋼メーカーに行きたいと思っていた。座談会で憧れの会社の人の話を聞くと、自分がそこに入った姿を想像できて頑張ろうと思った。しかし、いざエントリ

ーシートを書こうと思うと全く志望動機が思いつかなかった。仕方ないと思ってδ社（就職情報会社）などを使って、過去の通ったESを参考にそれっぽく仕上げた。

一応エントリーシートを添削してもらおうと思い、家族ラインに送った。志望動機を読んだお母さんに「何を言っているかわからない」と言われた。思わず涙がこみ上げて、電話越しにわんわん泣いてしまった。

何とか修正してエントリーシートを20社ほど提出した。しかし、自分の想像以上に書類で落とされた。このままではまずいと直感し、六甲台就職相談センターに駆け込んだ。提出したエントリーシートを何枚か持って行って見せたところ、「これは作文で、内容が薄っぺらい」と言われた。核心を突かれた気がして、その場で号泣した。何度も何度も友達に添削してもらって作り上げたエントリーシートは、いつの間にかすごく読みやすい作文になっていた。

このままではどこの会社も受からないと思い、その日に自己分析をやり直し、エントリーシートも全ての項目を書き直した。自己分析の結果、自分は社会に影響を与えたいから、重厚長大な素材メーカーに行きたいという志望動機が出来上がった。

次の日もう一度六甲台就職相談センターに行って書き直したエントリーシートを見もらった。「ものすごく良くなった」そう言ってもらえて本当に安堵した。これで大丈夫、まだ戦えると思った。ただ、素材メーカーは文系採用人数が少ないからハウスメーカーを増やしてみてもどうかと提案を受けた。ハウスメーカーも家を建てたい人にすごい影響を与えるという意味で志望動機もかけると思い、新たに数社ハウスメーカーにもエントリーした。ゴールデンウィークが明けて、本格的に面接ラッシュが始まった。周りではちらほら内定をもらう友達がいて少し焦りもした。面接の練習を六甲台就職相談センターでしてもらい、自分でも家でたくさん練習して面接に臨んだ。しかし、来るのはお祈りメールばかりだった。5月が終わる頃、持ち駒はほぼ0になっていた。

6月1日になり大手の面接が解禁された。でも私に面接の予定はなかった。友達は次々に大手の内定をもらっていた。どうすればいいかわからなくなって、就活を終えた友達に相談して自己分析を手伝ってもらったりもした。しかし、そこでいくら考えても、自分が何をしたいかなんともうわからなくなっていた。

何とかしないといけないと思い、就活リスタートという学内セミナーに参加した。内心ボロボロになりながら向かったが、まだこんなに募集している会社があるんだと思って少し安心した。そこで初めてシステム会社の話を聞いた。私の周りにSEをやっている友達が多かったので何となく足が向かった。人事の方から猛烈なアタックを受けてこん

な私でも求めてくれるんだと思い嬉しくなった。SE は人不足でいろいろな会社がまだ募集をしていたので、そこから SE を目指すようになった。

心身ともに不安定になり始めていたので、地元本社のシステム会社に応募して実家に帰った。母や姉はととも私を心配してくれて話を聞いてくれたので、少し回復することができた。また、地元の会社で始めて最終選考に進むことができた。もう蟬がうるさく鳴き始めていてスーツを着るのが暑すぎる季節になっていた。この会社に合格して早く就活を終えたい、そう思った。

最終面接の日。面接に行く前にパソコンでメールチェックをしていた。すると、先日受けた他のシステム会社からメールが来ていた。絶対にお祈りメールだと思った。大事な最終面接の前に心を乱したくないと思い震えた。怖くてしょうがなくなって、六甲台就職相談センターの X さんに電話した。「大丈夫。メールを見よう。」そう言われてメールを開くと案の定お祈りメールで、虚無になった。しかし、結果を受け入れて最終面接に挑むしかなかった。

「頑張れ○○○！」

面接前に六甲台就職相談センター相談員の X さんから励ましのメールが来て、もうやるしかないと思った。迎えた最終面接。やっぱり私は焦っていた。もうこの会社しかない。どうしても入れてください。

帰り道、初めて最終面接を受けることができなぜか泣きそうだった。ただ脳裏に焼きついていたのは、退出する際の面接官の顔だった。テーブルの上で腕を組んで、考え込んでいる様子は面接結果を表している気がして恐ろしかった。でもリクルーターにとってもよくしてもらっていたので、いけるはず！と信じた。

それから下宿先に戻って最終面接の結果をドキドキしながら待った。一次面接の時は翌日に電話が来ていたのに、最終の結果は数日間来なかった。不安で胸が押し潰されそうだった。

一週間ほど経った時、メールが来た。

「誠に残念ながら、ご縁を持たせていただくことができませんでした」

自分の中でガラガラと崩れ落ちる音がした。なんとなく予期していたものの現実だと思おうと吐き気がした。また 1 から会社を見つけないといけない。

その日から夜もまともに寝られなくなって、なんとか寝られても早朝に起きてしまう日々が続いた。α 社で会社説明会の予約をするも、もう戦う気力がなくて気づけば涙がこぼれ落ちた。

六甲台就職相談センターに行って、ここからどうするか一緒に考えてもらった。そこ

で、「本当にSEになりたいのかももう一度よく考えてみなさい」とアドバイスもらった。生協に行って、情報系の参考書をもう一度読んでみた。全然やりたいと思えなかった。

SEもダメ。じゃあどこに行けばいいの？もう自分に就職できる会社なんてないと思った。辛くて、辛くて毎日泣いた。誰かに話しを聞いてもらいたくて六甲台就職相談センターのXさんや同じマンションの友達にすがっては泣いていた。

「来年もう一回挑戦するという選択肢もあるよ」

就職留年も選択肢だと言われた。自分でも、もう戦うことはできないと思い今年は諦めようと思った。留年するとなると、学費や生活費がさらにかかるから親の許可をちゃんと得ないといけない。

親の許可を得るために実家に帰った。恐る恐る、お母さんに就活を来年に伸ばしたいということを話した。すると猛反対された。「今年諦めたとして、来年うまくいくとは思えない。とりあえずどこでもいいから就職して」と言われた。ごもつとも何も反論できなかった。面接ももっと話す内容を考え直した方がいいと言われて、お母さんが言うことは理解できるけど、また面接を受けないといけないと思うと辛くなっておばあちゃん家に逃げた。

正直おばあちゃんは私の気持ちをわかってくれると思っていた。でも、おばあちゃんにもとりあえずどこかには就職した方がいいと言われた。誰も味方はいないと思った。もうどこを志望したらいいのかさえわからなくて途方に暮れて、また泣いた。

泣いてもどんどん辛くなるばかりだった。なんとかして楽になりたかった。その時、浪人の時にもお世話になった高校の先生の存在を思い出して、意を決して電話をかけた。先生につながった。話し出すと今まで辛かったことがどんどん出てきて止まらなかった。就活をやめたいこと、面接が怖いこと、続けるとしてもどこを受けたらいいかわからないこと、全て話した。

「今まで真面目に生きてきたんだから、留年するとしても、どこかに就職するとしても、どっちに転んでも絶対に大丈夫だよ」

この言葉を聞いて、涙が止まらなかった。ずっと誰かにこうやって言って欲しかったんだと思った。

先生と1時間ほど電話してずっと泣いていた。でも電話を切った後は、なぜか自分の中で「絶対に大丈夫」という自信が生まれたのがわかった。その日の夜は数ヶ月ぶりにぐっすり眠ることができた。

それから少しずつ企業を探し始めた。たまたま登録していた就職サイトからオファーメールが来た。ドラッグストアのスペシャリスト枠採用で、一度お話ししませんかというものだった。

一度大阪で人事の人と会った後、最終面接として〇〇県の本社に呼ばれた。交通費・宿泊費は会社が持ってくれるということだったが、〇〇県ということに腰が重かった。六甲台就職相談センター相談員のXさんに〇〇県にあまり行きたくない、と話した。すると、一つでも内定を持っておくことが大事だからとりあえず行ってきなさい、と背中を押してもらい、気は重かったものの〇〇県に行くことにした。

店舗見学や最終面接をなんとか耐えた。面接というよりおしゃべりだった。無事に帰ってきた翌日、リクルーターから電話があつて内定の通知を受けた。初めて内定をもらった瞬間だった。それまで就活に苦労しすぎていたので、「こんなに簡単に内定もらえるの？」という気持ちだった。

しかし、その会社には行きたくなかった。この内定を蹴るために、もうちょっと納得できるところから内定をもらおうと思った。就職相談センターに相談したところ、まだ大手スーパーは採用を続けていて、受けてみてはどうかと勧めてもらった。また法学部だから司法書士事務所にも応募してみてもどうかという話になり、とりあえず応募してみることにした。

大手スーパーに2社、司法書士事務所に1社エントリーした。初めの筆記試験は難なく突破した。そして、久しぶりに面接を受ける日がやってきた。システム会社の最終面接を受けた以来のちゃんとした面接だったから、もちろん緊張した。でも今までの自分とは少し違った。なぜか大丈夫だろうと思った。

「周りの人からなんて言われますか？」

メガネをかけた人事部の女性で、少し怖そうな面接官だった。この手の質問はよく聞かれるから模範解答を用意していたけど、一度勝負に出ようと思った。「おかしいねって言われることもあります」そう言うと面接官の目が変わった気がした。サークルの新歓の話をしたところ、その面接官が笑ってくれた。初めて面接で笑ってもらえた。それだけでものすごく嬉しかった。

今まで面接の帰り道はいつも落ち込んでいたけど、その日は“るんるん”しながら帰った。結果はどうであれ、面接官に笑ってもらえたからいいや、という気持ちだった。数日後、その会社から最終面接の案内が来た。また並行して、司法書士事務所からも内定をもらい、もう一方のスーパーも最終面接の案内をもらった。

迎えた最終面接。役員男性2人との面接だった。就活状況を聞かれたので、正直に司法書士かスーパーかで迷っていますと答えた。すると、どっちに決めるのかものすごく詰められた。しかし、その時どっちに決めることもできなかったもので、二つとも大事にしている最終的には自分の直感で決めたいです、と答えた。

「君はどっちを選んでも活躍できると思うよ」

この言葉を聞いて思わず泣きそうになった。やっと自分の覚悟みたいなものが面接官にも伝わったんだと思った。数日後、内定通知をもらった。

司法書士事務所は、卒業までアルバイトをしてほしいというお話で内定をもらっていた。月水金の週三回、フルタイムで働くことになった。初めて事務所に入った時学生は一人だし、周りは真面目そうな社会人ばかりでとても不安だった。でも、頑張るしかないと思った。初めはパンフレットのシール貼りを頼まれたが、それを全力でやろうと思った。与えてもらった仕事に全力で取り組んでいたら、だんだん新しい仕事を振ってもらえるようになった。ものすごく疲れたけどやりがいは感じていた。

出勤し始めて三日目、内定をもらったスーパーから内定者面談で呼ばれたので、午前中だけ休みをもらった。

内定者面談に行くと、あの笑ってくれた女性の人事の方がいた。なんと、その人は同じ大学の先輩だった。スーパーでの働き方や仕事のやりがいなど気になっていたことはすべて教えてくれた。大学の話でも盛り上がった。とてもご縁を感じて、ここに入社しようと思った。その気持ちで司法書士のアルバイトに向かうと、所長にちょっといい？と呼ばれ、カフェで話すことになった。

「内定した会社と司法書士と、どちらに行きたいの？」

なんとなく大事な話の予感はしていたが的中した。正直にスーパーに行きたいと答えた。すると所長は、こちらとしては司法書士を目指す前提で雇っているから、そういう気持ちなら今日で終わりにしてほしいと言われた。なんと覚悟して始めた司法書士のアルバイトを三日で辞めることになったのだ。その日は何故だかもものすごくお酒を飲みたい気分になって一人で飲んだ。

スーパーに行くことを心に決めて、あとはすべて内定辞退の連絡を入れた。お世話になった家族や友達にも報告した。たまに、大卒でスーパー？という反応をされたけど、自分をご縁を感じた結果だからそこで頑張ろうと思った。

やっと就活が終わった！と思い、就活お疲れ様会を翌々日に控えた日、ダメ元で出していたE社（電子部品・電気機器メーカー）の秋採用の書類選考通過の通知が届いた。そう、さかのぼること2週間前、私は図書館で司法書士試験の勉強をしていた。元から司法書士になりたいわけではなかったのですが、やる気はものすごくなかった。いやいや教科書とにらめっこしていると煮詰まってきて、何か本を読もうと思った。

普通の本より何か頑張った人の本を読んで元気になりたいと思った。病んでいた時に名言集サイトでF社（衣料品生産販売会社）やE社の創業者の人の言葉を見たことがあって、その人たちの本を読みたいと思った。図書館のパソコンで検索して、出会ったのがE社の創業者・〇〇さんの『働き方』という本。その本の内容は、〇〇さんがE社を

立ち上げ、さらに成功に導くまでの自伝だった。〇〇さんは受験だけでなく就職にも失敗したにもかかわらず、そこから気持ちを持ち直してE社を立ち上げていた。自分の状況と重なって読むスピードが速くなっていった。読み終わって自分もどこに行ったとしてもそこで精一杯努力しようと前向きな気持ちになれた。

それから数日経って、いつも通りパソコンでメールチェックをしていたところ、E社から法務職で秋採用を行います、とメールが来た。「受けるしかない」そう思った。六甲台就職相談センター相談員のXさんにも相談したところ、やってみなはれ！と言ってもらえたのでエントリーシートを書いて提出した。

それからずっと連絡がなかったので落ちたものだと思っていた。面接日は間近だった。最後の正直で受けに行こうと決めた。迎えた面接日。天気は暑すぎず寒すぎず、とても気持ちが良い日だった。音楽を聴きながら穏やかな気持ちで会場に向かった。到着すると他にも就活生が3人いて、「なんだ、みんなまだ就活してるじゃん」と妙に安心した。

面接は2対2の集団面接だった。先にもう一人の就活生が質問される番で、自分もすごく緊張していたけど、その人が話す内容を冷静に聞いている自分がいて、だんだん落ち着いてきていることが分かった。自分が質問される時には、「なんでも聞いてください」という気持ちで面接官の目を見つめた。

面接内容はいくつか強く記憶に残っている。

「E社の製品は身近に触れたことがないものばかりだと思いますけど、どうですか？」という質問があった。正直に、身近ではないですと言った。でも就活序盤に鉄鋼メーカーの工場見学に行ってもものすごく感動したことを思い出して、工場を直接見て学んでいきたいです、と答えた。あの時工場見学に行ったことが無駄ではなかった気がした。

「アルバイトで仕事をしていた時に大事にしていたことは何ですか？」という質問もあった。私は辛かった司法書士のアルバイトのことを思い出した。与えてもらった仕事を100%ではなく、120%で返す。最初はシール貼りだったけど、それを全力でやったら事務所の人たちから信頼を得られた。そういった内容を話した。

「負けず嫌いですか？」と食い気味に聞かれた。「なにくそ、と思って努力します」と答えたら、面接官2人とも笑ってくれた。

就活状況を聞かれた時、今のスーパーに内定を決めたのは同じ大学の先輩に出会ってご縁を感じたからです、と答えたところ、なんと法務の面接官も同じ大学で同じ学部出身だというのだ。さらに地元まで同じだった。話が盛り上がった。

そんなこんなで面接を終えて、帰り道、これが通ったら今までやってきたことはすべて無駄じゃないんだろうなとぼんやり考えていた。通ったらいいなという気持ちの傍ら、ディズニーに行ったりしてしっかり夏休みを楽しんだ。

結果がわかる日。恐る恐るマイページにログインしたら、「最終面接にお越しく下さい」と書かれてあった。面接日はもう明後日だ。緊張したけど、最後はE社にどうしても伝

えたい気持ちがあった。それだけは言いに行こうと思って面接に向かった。

最終面接は偉いおじさん3人との個人面接だった。圧倒されそうになったが、素を出し切って後悔がないようにしようと思った。自己紹介の時点から、高校時代はアイドルが好きで〜と言ったりして、ありのまま臨んだ。

なぜ法務に入りたいかやE社の志望理由を聞かれると思ったが、実際に聞かれたのは「お酒好き？」とか「法務にバンドあるから一緒にバンドやろう」とかラフな内容ばかりだった。気づいたら終わっていた。最後に伝えなかった事だけはしっかり言いたいと思って、気持ちを伝えさせてもらった。

私は就職活動を通して、何を選んだとしても正解はないと強く思った。司法書士かスパーかどちらも選ぶことはできたけど、最後は自分が選んだものを正解にしていくしかないと思った。そんな中で受けたE社の面接で、印象的だったことは、「正解がない中で人間として大切な事を大事にする」と前回の面接官が言っていた事だった。素直に心から共感した。この気持ちだけは伝えたいと思っていて、最後に言わせてもらった。もう後悔はなかった。

最終面接が終わった後、人事の人と面談があった。そこで、「海外に興味ある？」と聞かれた。私は就活を始めた頃、いつか海外に行きたいと思っていてそういうチャンスがある会社であるかは必ずチェックしていた。でも留学したことがあるわけではなく、単なる憧れだったのでその気持ちは言わないようにした。

そんな矢先に聞かれた「海外に興味ある？」という言葉はとても輝きを持っていて、「あります！」と目をキラキラさせて答えた。海外法務の内容も詳しく教えてもらえた。帰り際には、ショールームで生の製品をぜひ見てから帰ってくださいと言ってもらえて、落ちたとしてもすごくいい会社だと思った。

家に帰る最中、本当に全ての面接が終わったのだと思い、達成感があった。

連休が明けた日、結果に少しそわそわしながら学食でご飯を食べていた。すると知らない番号から電話がかかってきた。E社から内定の連絡だった。

とても現実とは思えなかった。本当に、本当に長かった。何度も心が折れかけて、一時は本当に折れていたけど、諦めずに頑張りを続けたら、最後にとっても良い結果をいただくことができた。

今まで支えてくれた人たちに感謝の気持ちしか湧いてこなかった。辛かったけど最後まで頑張れたのは、周りの人の支えがあったからだから。

内定はゴールではなく始まりにすぎない。これからもっと正解のない世界で生きていけないといけない。でも大丈夫、今回の経験で最終的にとても良い結果をもらったように、与えられた場所で精一杯花を咲かせよう。張り切りすぎず、落ち込みすぎず、やれることに精一杯取り組む。それだけで人生は十分なのだ。